

# 米中で事業拡大

米中の貿易摩擦は終わりが見えないものの、日本企業にとって両大国が重要な市場であることに変わりはない。事業拡大を狙う各社は技術開発の強化や販路の拡大、受注戦などに挑み続ける。

## 中国 中外炉工業

中外炉工業は中国の中小型ディスプレイメーカーから、折り曲げられる有機ELパネル量産用に精密塗工システム2ライン分を受注した。受注額は非公表だが10億~15億円程度とみられる。2020年春頃に納入予定。スマートフォン向け有機ELパネルでは中国勢

が台頭している。中外炉工業では今回の受注をテコに、有機EL用塗工システムの採用拡大に弾みをつけたい考えた。

## 精密塗工装置を受注 折り畳みスマホ量産向け



中外炉工業の  
精密塗工システム(同社提  
供)

今回とは別の中国メーカー向けに同システム6ライン分を初受注している。今回、「どちらの高粘度樹脂を薄く塗る技術が評価された」という。同社では折り畳み型スマホに搭載する有機ELパネル用塗工システムとし、24年3月期までに国内外で20~30ライン分の受注を目指す。

米中の貿易摩擦は終わりが見えないものの、日本企業にとって両大国が重要な市場であることに変わりはない。事業拡大を狙う各社は技術開発の強化や販路の拡大、受注戦などに挑み続ける。

受注した精密塗工システムは、フレキシブル有機ELの基板となるポリイミド樹脂の成膜工程を担う。スマホ向け中小型ディスプレイメー

ーなどに使われる第6世代(1500mm×1850mm)の基板をテコに、有機EL用塗工システムの採用拡大で、2ライン分合計で月産約1万5000枚のパネルを量産でき

た」(開発本部長の新谷昌徳取締役執行役員)

ことで、受注に結びついたという。同社